

# NEWS 病院ニュース

2009年10月 第19号 (年4回発行)

1面 ●医療日本一の千葉県を築きたい —森田県知事が千葉大学病院を訪問—

2面 ●新型インフルエンザ、冬に向け大流行の兆し  
●患者さんの声

3面 ●千葉大病院で働きなくなった —サマーインターンシップ—  
●<ミニニュース> 高度先端医療の推進とアメニティーの充実/新型インフルエンザ検査業務支援に厚生労働大臣からの感謝状/参加型トリアージをメインに/図書館の貸し出し、外来患者の案内などボランティア16名に感謝状贈呈式

4面 ●<フリートーク> 脳の世紀を迎えて日進月歩の病態解明、治療法/桑原聡教授  
●<亥鼻むかし・昔> 七天王塚と将門の伝承  
●<トピックス> 診療ネットワークの中心的役割果たす

主な内容



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1  
TEL 043-222-7171 (代表)

http://www.ho.chiba-u.ac.jp/



ひがし棟のヘリポートを視察する森田県知事(中央)と藤森県医師会会長(左)。右端は河野病院長。

## <医療日本一>の

### 森田県知事が 千葉大学病院を訪問

# 千葉県を築きたい

千葉県の医療の実情を視察するため、さる8月24日森田健作知事と藤森宗徳県医師会会長ら一行が千葉大学附属病院を訪問しました。視察後の齋藤学長、河野病院長ら関係者との懇談会で森田知事は「千葉県を『医療日本一』にしたい」と決意を語りました。千葉県知事による千葉大学病院の視察、また千葉県、県医師会、千葉大病院三者が一堂に会して懇談したのは初めてのことです。

#### ひがし棟特別病室も視察

森田知事は到着後まず、ひがし棟のヘリポートを視察。夕暮れの千葉市街を一望しながら、藤森県医師会会長や河野病院長とドクターヘリの



懇談会風景

活躍などについて語り合いました。その後、ひがし棟の特別病室と、今年7月に改修の終わったみなみ棟、NICU(新生児特定集中治療室)を視察。河野病院長から千葉大学病院の小児医療の現状について説明を受けました。

#### 三者の協力体制を確認

最後に、千葉県、県医師会、病院の各関係者など30名の参加する「懇談会」が開かれ、冒頭森田知事が「千葉県はきわめて高いポテンシャルを持った土地柄。医療面においても、首都圏をリードしていくような『医療日本一』をめざしたい。県としても、スタッフ一丸と

## いの はな

### 「その人らしく 生きる」を支える

「ソーシャルワーカー」。よく聞けども実際どんなことをする人なの——という方が多いかもしれません。

ソーシャルワーカーは、病気や障害がありながらも「その人らしく生きる」ことを支える仕事です。そのためにご本人や家族にお会いして、今の状況をどのように思い、これからの生活をどうしようと考えているのか——をうかがって、一緒に考えていきます。

お話をうかがうとき大切にしているのは、具体的な生活のありようです。ですから、これまでどのように暮らしていたか、これからどのように暮らしていきたいか、これからの生活に何が必要で必要なものをどのように手に入れようとお考えなのか、などをお聞きしていきます。

実際には、多くの方がこれからの生活を具体的に描けているわけではありません。漠然と浮かんでいる、あるいはまったくイメージが湧かない方も少なくありません。少しずつ面談を重ねて、ご本人が考えて決めていくために必要な情報を提供し相談します。その情報は、公的制度(例えば介護保険や年金制度)であったり、ご自宅近くの療養できる病院や訪問医や訪問看護ステーションの情報だったりします。

加えてソーシャルワーカーは、ご本人の了解を得て病気や障害のことを、主治医や担当看護師、リハビリスタッフなどに問い合わせます。このようにして身体的、社会的、経済的、心理的な側面から総合的にご本人のプランを確認し、無理のない現実的な生活を送っていただけるよう日々奮闘しています。

(地域医療連携部ソーシャルワーカー 葛田衣重)

なつてチームスピリットを発揮し、取り組んでいくと力強く決意表明。これを受けて藤森会長が「千葉大病院は、地域医療にとっても熱心に取り組まれており、そのことが千葉県全体の医療の発展につながっている。従来では考えられなかったサービスマやアメニティーの向上に驚かされる」と高く評価。齋藤学長も「千葉大は、総合大学としての機能を十分に生かした病院として日々向上し、先進の医療を世界に発信していく。また、常に千葉県民に愛される病院でありたい」と語り、河野病院長はこの



握手を交わす森田知事(左)と河野病院長

懇談会を千葉県地域医療の素晴らしき第一歩としたい」と述べました。「懇談会」では、そのほか山本副院長の「地域医療を見据えた千葉大病院の再開発計画について」、高林院長補佐の「地域医療の課題と千葉大学の役割について」と題するプレゼンテーションが行われ、その内容をふまえた意見交換も活発に行われました。

# ワクチン接種、手洗い、うがいが有効



## 新型インフルエンザ、冬に向け大流行の兆し

新型インフルエンザが、これからの本格的な冬に向かって、大流行の兆しを見せています。今回の新型インフルエンザは、豚の体内で豚と鳥と人のウイルスが混ざって新しいウイルスに変化したものといわれています。症状としては、急な発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、鼻水、頭痛など一見季節性のインフルエンザに似ていますが、これに加えて下痢や嘔吐を伴うこともあり、肺炎にかかりやすく、感染力の強いことが特徴です。さらに免疫が私たちにないため、多臓器不全など、重症化する怖れが指摘されています。

これに対し千葉大病院では、広く県民の皆様へ感染予防を広報するとともに、院内感染の防止、新型インフルエンザ対策に懸命の取り組みをしています。

**感染力が強く時に重症化**  
●多くは軽症だが、中には重症となる。  
平成21年春、豚インフルエンザから新型のインフルエンザ(H1N1)が発生しました。感染力が強く、急速にまん延しますが、幸いにも弱毒性であることが分かりました。

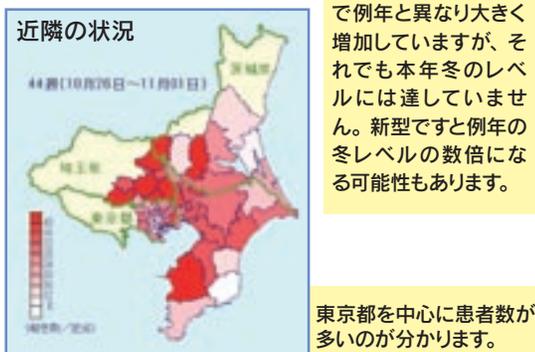
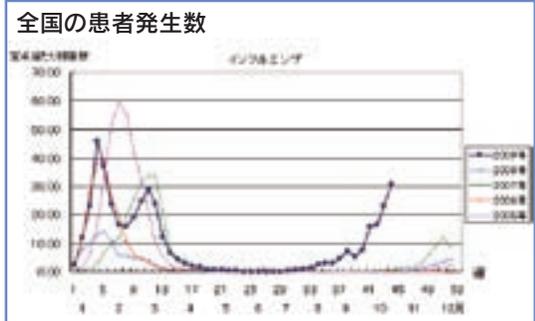
とされていますが、これもいつ新型に変化する心配されています。新型ウイルスに感染しても、多くの人は(軽症で)済んでいるようですが、中には重症となる大きな問題で、今シーズンは季節性と新型用二種類のインフルエンザワクチンの接種を受けることが大切です。

しかし、新型用は供給量が限られ優先順位が決められています。

**妊婦、基礎疾患のある人、幼児を優先**  
●ワクチン接種  
新型インフルエンザの感染防止でもっとも有効と思われるワクチンの接種について、厚生労働省はこのほど「接種スケジュール」の基本方針を発表しました。それによると、医療従事者を最優先に10月から開始。

次いで11月からは「妊婦」「基礎疾患のある人」「幼児(1歳)」「就学前」「小学生低学年」「1歳未満児を持つ保護者」「以下「小学校高学年」「中学生」「高校生

## ●新型インフルエンザの発生状況 (千葉県感染症情報センター HPより)



2009年は10月時点で例年と異なり大きく増加していますが、それでも本年冬のレベルには達していません。新型ですと例年の冬レベルの数倍になる可能性もあります。

「高齢者」と順番に進め、年度内来年3月に約5400万人の接種を終えることにしています。

なお、本院の外來患者さんへのワクチン接種は11月16日より開始します。当面は妊婦・基礎疾患のある方に限定されますので、接種希望のある方は受診時に担当の医師にご相談下さい。

## ウイルスは手から口、鼻に侵入

### ●暮らしの中の感染予防

日常生活の中で、一番有効なのは、家族全員で外出からの帰宅時には石鹸による手洗い、うがいを徹底すること。また毎朝体調をチェックし、変調のある時は自宅安静とし、症状発熱・咳・鼻水・咽頭痛などがはつきりとしてきたら事前に連絡の上、医療機関を受診することです。症状のある時は、他人に感染させないようにマスクをすることが必要です。不要の外出は避けましょう。

付着したウイルスは2〜8時間生存しています。ウイルスは、手から口や鼻に侵入します。また咳やくしゃみからの飛沫感染もあります。

## 院内感染の防止に全力

### ●千葉大病院の取り組み

病院内には、さまざまな病気で重症の患者さんが多数入院されているため、院内で新型インフルエンザが広がること、きわめて深刻な事態となります。病院としては、可能な限りの院内感染対策を講じていますが、来院される方のご理解とご協力をぜひお願いします。

- 発熱などインフルエンザと思われる症状(咳、痰、鼻水、喉の痛み、関節痛も含む)がある場合は、家を出る前に担当の診療科に連絡してください。
- ウイルスの感染から発症までの潜伏期間は1日〜4日(最大7日)かかるといわれています。このため、入院後に発症することもあります。(自宅療養が可能と判断した場合は、いったん退院のうえ、自宅で治療していただくことがあります。)
- 入院中の患者さんの外泊・外出は、市中での感染のリスクが高くなりますので、自粛してください。

## 【暮らしの中の感染予防】

- 咳エチケットを守りましょう=咳やくしゃみの飛沫は、1~2メートル飛ぶといわれます。咳・鼻水などのある人はマスクをしましょう。
- 手洗いの励行=インフルエンザは手指を介しても感染します。外出から帰ったときだけでなく、調理、食事の前などは、できるだけこまめに洗いましょう。
- うがい=外出から帰ったらうがいをしましょう。

# 患者さんの声

皆様の声に 答えします

## 感謝の言葉

消化器内科の外來診療において、水曜日の外來担当A先生はいつもきちんと話を聞いてくださり、質問に対しても、患者が分かる言葉、内容で説明してくださいます。特に重要な問いに対しては、パソコンを打つ手をとめ、きちんと患者の方に体を向け、眼を見て話してくださいました。決して長い時間の診察ではありませんが、納得して頑張つて治療をしていこうという気力がでてきます。素晴らしい先生です。ありがとうございます。

長さんを含む27人の看護師さんには、いつも親切に面倒をみていただき、本当にありがとうございました。

特に1年生、2年生、3年生の皆さん、いつも変わらない優しい笑顔と心配りをありがとうございます。「いつでも呼んで」「大丈夫、大丈夫」「何か他にやることはない?」その思いやりと笑顔に帰ってこられませんでした。

病院は看護師の方たちの頑張りと努力で思いうれやうで支えられているのだ。とつくづく感じた日々でした。仲良し9人の1年生たち、ナースコールしたとき、誰か顔を出してくれるのか?その笑顔を見るのも楽しみの一つだったりして...これからもめげずに、元気に笑顔で頑張ってくださいね。

## 担当医師が決まっていないのはなぜ?

Q 医師の担当が決まっていないため、毎度違った医師に診てもらっており、そのためか、患者の現状の把握ができていません。とても不安です。

A 不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。私共の外來では、患者さんお一人おひとりに特定の主治医を設けておりません。その理由は、特定の医師による診察より複数の医師による診察の方が、患者さんの病態に関してさまざまな角度から診察でき、早期の異常に対応できる——という判断に基づいているからです。ご理解いただきたいと思います。

## 外來受診の駐車料金は免除を

Q 診療科にかかわらず、外來受診のときの駐車料金は免除して欲しいです。

A 特に精神科は皆さん時間がかかるため、予約時間通りに行くことはなく、必ず100円の駐車料金がかかります。毎回100円かかることは非常に負担になってきます。他の県内の医療機関では外來受診の場合、駐車料金を取らないところがたくさんあります。ぜひ検討ください。

A 本院では、従来より駐車スペースが不足していたため、ご来院の際はなるべく電車やバスなどの公共の交通機関をご利用いただくようお願いしているところです。

しかしながら、それぞれの事情もあつて、車で来院される方も多く、患者さんおおよびお見舞いの方の駐車スペース確保のため、平成18年度に立体駐車場を整備しました。

これに伴い、維持管理費用が必要となることから、駐車を利用される患者さんに駐車整理料の徴収に関するアンケート調査を実施し、その回答を踏まえて現行の駐車料金を設定し、徴収させていただきます。患者さんにはご負担をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

# 千葉大学病院で働きたくなった！

## サマーインターンシップ

さる8月18日からの4日間と8月25日からの4日間、平成22年3月卒業予定の看護学生を対象に「サマーインターンシップ」が開催されました。

サマーインターンシップは①就職先を検討中の看護学生に、本院の特徴や職場環境を知る機会を提供する ②本院の看護実践の体験や病院スタッフとのふれあいを通し、看護学生が本院への就職を積極的に検討すること——を目的としています。

本院では、4年前からサマーインターンシップを実施していますが、参加者の多くが本院に就職しています。

今年は、北海道から静岡まで延べ44名の看護学生が参加しました。病院や看護部の概要、新人の教育体制についての紹介のあと、病院内を見学し、希望する病棟で看護体験してもらいました。希望する学生さんには、専門看護師・認定看護師の活動を見学してもらいました。

今年は、にし棟改修工事を控えていたため、実施期間、募集人員とも昨年より少なくなりましたが、夜間体験実習は昨年同様に実施しました。夜間体験は学校では行われておらず、夜の病棟や患者さんの息とは違う様子に、学生さんは新鮮な体験ができたようです。

参加した学生さんからは「就職先の検討に参考になった」「就職後の自分をイメージすることができた」「千葉大はアットホームでよかった」「千葉大で働きたくなつた」などの感想が寄せられました。

来年も魅力あるサマーインターンシップを企画し、多くの学生さんが本院へ就職してくれるよう頑張っていこうと考えています。

このサマーインターンシップの様子は、病院ホームページにも掲載しています。



## mini news

### 新型インフルエンザの検疫業務支援に厚生労働大臣からの感謝状

今年の5月に成田空港検疫所で検疫業務支援に従事した医師、看護師に対して、厚生労働大臣の感謝状が河野病院長より渡されました。(写真)

この感謝状は、帰国ラッシュがピークになる5月5日から22日までの間、文部科学省を通じた厚生労働省からの要請に応えるかたちで、本院の医師、看護師総勢18名が成田空港において新型インフルエンザ発生に伴う検疫業務の支援に従事したことに対し授与されたものです。

また派遣元機関として、千葉大学病院にも同様の感謝状が送られました。



### 高度先端医療の推進とアメニティの充実

#### ●にし棟の改修計画

本院では、さる平成21年9月20日、にし棟の改修に伴う病棟移転を行いました。移転時は、入院患者さんやご家族の方にご迷惑をおかけしましたが、無事に移転を終えることができました。ご協力ありがとうございました。

本院の病棟整備計画は、平成20年5月ひがし棟新営、21年7月みなみ棟改修に続き、23年4月にはにし棟改修が完了する予定になっています。

にし棟改修計画では、患者さんの療養環境の改善のため病床の個室・4床室への再構築、コミュニティスペースとしてのテイルームの整備や、高度先端医療を効率的に行うため集学治療フロア(ICU、CCU)の整備等を予定しています。

今後の工事予定としては、平成22年4月までに西側工事、平成22年10月までに東側4~8階工事、平成23年4月までに東側9~11階工事を行います。改修工事にあたり、エレベーター運用台数の減少があり、入院患者さんやご家族、ご面会の方に多大なご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

\*ICU=集中治療室 CCU=冠動脈疾患管理室

### 図書の貸し出し、外来患者の案内などボランティア16名に感謝状贈呈式

千葉大学病院では現在、約80名のボランティアが院内で活動しています。

活動内容は年々増えてきており、なのはな文庫(図書の貸し出し)、患者さんのお世話、メイクアップボランティア、外来ホールでの演奏、朗読ボランティア、ギャラリーへの作品展示など、様々です。

千葉大学病院では1年に1度ボランティア感謝状贈呈式を開催し、活動ごとに一定時間又は回数によって感謝状を贈呈しています。

今年も10月8日にボランティア感謝状贈呈式が開催され、約30名のボランティアが出席し、16名に感謝状を贈呈しました。式に引き続いては、感染症管理治療部の猪狩講師による新型インフルエンザについての講演やボランティア交流会が開かれ、参加者による活発な意見交換がなされました。

患者さんにとって、また病院スタッフにとっても、多大な貢献をいただいているボランティアの方々に心から感謝し、今後の活躍を期待したいと思います。



### 〈参加型トリアージ〉をメインに——

#### ●防災訓練

東京湾北部を震源とするM7.3、本院における震度は6弱の地震発生——を想定して、院内における情報伝達訓練及び外部からの患者受け入れを主な内容とした防災訓練が9月8日行われました。

情報伝達訓練では、地震対策本部の設置と院内各部署から本部への被災状況報告、トリアージセンターの設置が行われ、病棟看護師等の協力連携により想定時間内で終了しました。

外部患者受け入れでは、設置されたトリアージセンターで、救急部の医師がインストラクターとなり、他の部署の医師がトリアージを受けるという参加型の訓練が行われ、被災患者のトリアージ方法やトリアージタックの記載方法、トリアージされた患者の指定部署への搬送訓練も併せて行われました。

また、訓練に先立ち9月1日から4日まで、昼休み等において防災ビデオ上映による講習が第一講堂で開かれ、病院職員等約400名が参加しました。



\*トリアージ=災害時にできるだけ多くの傷病者に最善の医療を実施するため、傷病の緊急性と重症度により治療優先度を定める行為  
\*トリアージタック=トリアージを行う際に、負傷者の重症度等を記載するための札

F R E E TALK (フリートーク)

脳の世紀を迎えて

日進月歩の病態解明、治療法

脳・神経の内科疾患に携わる診療科

21世紀は「脳の世紀」といわれ、画像診断、分子・細胞生物学といわれる研究法が発展し、現在も急速な進歩を続けており、これまで治療が困難といわれてきた多くの脳神経疾患に関しても、詳細な病態が解明されつつあります。その成果を基礎に、新しい治療法を開発し、臨床研究を進めて社会に貢献することが神経内科の使命でもあります。

私の所属する『神経内科』は、手足の力が入らない・しびれる、歩きにくい、振るえる、物が二重に見える、頭が痛い、まぶたが下がる、ろれつがまわらない、物忘れ、めまいなどの症状を呈する疾患を扱います。病名でいうと、脳の血管が詰まって起こる「脳梗塞」、その血管が破れる「脳出血」、手足に振るえが出て動作が遅くなる「パーキンソン病」、認知症特に「アルツハイマー病」、運動神経と筋肉の伝わりに障害が出て起こる「重症筋無力症」、下痢や風邪の後に急性に手足が麻痺する末梢神経の炎症である「ギランバレー症候群」などを扱っています。

【プロフィール】  
・信条「明るく楽しい神経内科」。和気あいあいとした、活気のある環境の中で、優れた若手の医師を育て、診療と研究を進めていくポジティブな体制づくりをめざしている。  
・趣味「音楽(ジャズからハードロックまで)」  
・家族「妻1人と娘1人。現在休日かほとんどないので、何とか時間をつくり、家族とゆったり過ごしたい(娘に邪魔にされなければ)。

その他「頭痛の中には、筋肉の凝りによる緊張型頭痛」と発作性の血管拡張による「片頭痛」があります。さらに手足に力が入らなくなり、筋萎縮が進行する「筋萎縮性側索硬化症」なども対象としており、頻度の高い疾患からいわゆる「神経難病」とされる疾患まで幅広く診療を行っています。



千葉大学医学部附属病院 神経内科教授 桑原 聡

脳や末梢神経などの神経系や筋肉の病気の多くを神経内科で扱っていることになりました。

神経研究と優れた専門医育成に独自の研修

千葉大学医学部附属病院神経内科がめざしているのは、国際的に最高水準の診療、先端の臨床神経学・神経科学研究を実践すること、そして優秀な神経内科専門医を育てることです。神経内科専門医の育成のためのプログラムの一つとして、3〜6カ月間病棟業務をフリーにする期間を設け、神経画像、電気生理、生検病理、ボツリヌス治療を集中して研修するシステムを整備しています。

現在、私共の神経内科では、神経画像、神経生理学、免疫学、分子・細胞生物学、プロテオミクス(蛋白質解析)などの手法を用いて、それぞれの疾患の病態に合った新しい治療法の開発のため、診療・研究に努力しているところです。

診療においても種々の技術を駆使して疾患の状態を詳細に評価し、もっとも適切な治療を行うことを意識して診療を実践しています。

画像診断(MRIや脳血流検査)、電気生理(神経の電気現象を記録する検査)は非常に発達した分野で、診断に威力を発揮しています。脳卒中、アルツハイマー病、てんかん、糖尿病性末梢神経障害などは、全国に数百万人の患者さんがいる頻度の高い疾患です。パーキンソン病も約20万人とかなり多くの患者さんがいますが、こちらは毎年のように新薬が開発されていて、治療効果も大いに期待されます。

神経内科の取り扱う病気について、一般の皆様には、精神科や心療内科との区別がむずかしいようですが、上に書いたような具体的な病気や症状を考えていただくとういことが理解しやすいかと思えます。

トピックス 肝疾患診療ネットワークの中心的役割果たす

数年前に薬害C型肝炎訴訟が話題になり、昔の血液製剤による感染が問題になりましたが、現在国内にはB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス感染者が100万から200万人いるといわれています。これらの患者さんは、慢性肝炎が進行すると肝硬変、肝がんへの道をたどることになります。国内における肝細胞癌の年間死亡者は約3万5,000人、その原因の8割がC型肝炎、1割がB型肝炎です。そこで、病気が進行しないように慢性肝炎の時期にウイルスを排除、あるいは減少させるのがインターフェロン治療で、平成20年4月より公的医療費助成が受けられるようになってきました。ところで本院は、平成20年4月1日に千葉県の肝疾患診療拠点病院に指定され、肝疾患に関する情報提供や専門医療機関等の連携を図ることにより、千葉県の肝疾患診療ネットワークの中心的役割を担っています。県下の医療関係者を対象にウイルス性肝炎の研修会を年4回各地で開催し、ウイルス性肝炎の診療、治療に関する知識の普及を図っています。また、今年の6月からは肝疾患診療ネットワーク相談センターを開設し、患者さんやご家族の方から治療・病気に関する様々な質問をお受けしています。一人でも多くの患者さんが、正しい知識、新しい情報を得て、納得のいくよりよい治療を受けていただけるようにしたいと考えています。(消化器内科・今関文夫)

●千葉肝疾患診療ネットワーク相談センター  
千葉県肝疾患診療連携拠点病院 千葉大学医学部附属病院消化器内科  
千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
Tel&Fax 043-226-2717(相談センター) URL:http://ho-chiba-u.jp/kan/

皆様、如何お過ごしでしょうか。今号では新型インフルエンザを大きく取り上げました。10月以降、更なる流行が懸念されており、気になるニュースではないでしょうか。このニュースが、少しでもお役に立つことを願っています。きちんとした知識を身につけ、対策を講じれば、過剰に恐れることはありません。最近、新型インフルエンザばかりに話題がいきがちですが、私が所属する糖尿病・代謝・内分泌内科は、高脂血症、糖尿病、メタボリックシンドロームといった生活習慣病を対象としています。生活習慣病は「沈黙の殺人者」ともいわれ、症状はあまりないのですが、脳梗塞、心筋梗塞をはじめとした血管障害の大きな原因であり、インフルエンザに負けず劣らず注意が必要です。昔から「医食同源」といわれます。ご飯のおいしい季節になりましたが、皆様食べ過ぎにはご注意ください。きちんとした食生活を送りください。生活習慣病のみならず、インフルエンザ対策としても有効な第一歩となると思います。

編集委員 糖尿病・代謝・内分泌内科 藤本昌紀

亥鼻 10 七天王塚と将門の伝承 七人の影武者の墓!?

千葉大学医学部の敷地内と敷地外にある七天王塚の七つの塚は北斗七星を表し、北斗七星を神格化した妙見さまを信仰した千葉氏と関係が深いといわれています。しかし、七天王塚には、平将門の(七人の影武者)の墓という伝承があります。将門は一族の間で争いを続け、ついには天慶2(939)年、朝廷に反抗するに至り、翌年敗れたとして知られていますが、なぜ千葉にある七天王塚に将門の伝承があるのでしょうか?七天王塚と千葉氏、将門の関係について考えてみ

たいと思います。千葉氏は、桓武天皇の子孫である平良文を始祖としていますが、将門の父である良持(将)は、良文とは兄弟、つまり将門は良文の甥なのです。千葉氏に近い立場にある人が『平家物語』に千葉妙見の説話を持ち込み、作りあげたと考えられる文献には、良文は叔父でありながら将門の養子になったことや、千葉常胤の孫である成胤が、合戦の名乗りの中で自分を「将門の子孫である」と強調したことが書かれています。これにより将門は、後世民衆の代弁者として支持され、英雄として崇拝されていったのでしょうか。東京都千代田区にある平将門を祀っている神田明神には、平将門と七人の影武者の絵が残されています。(妙見信仰研究家・宮原さつき)

将門と七人の影武者(神田明神所蔵・千葉市立郷土博物館)